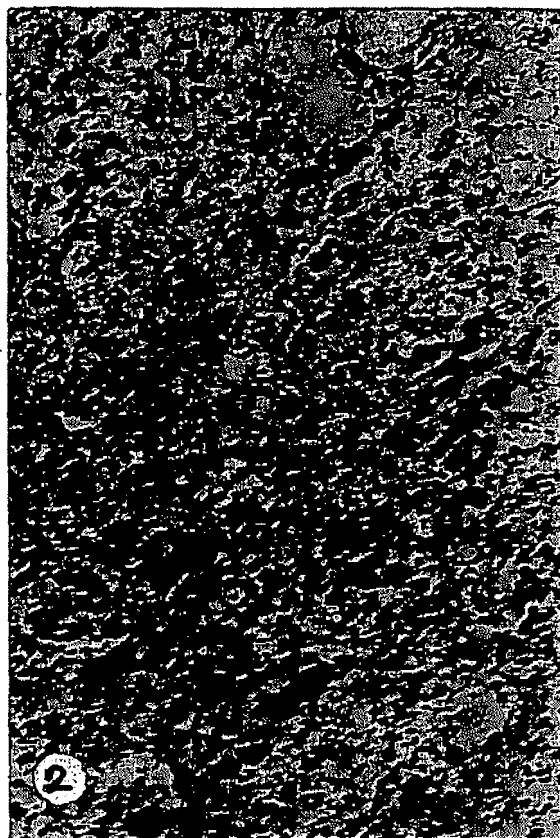
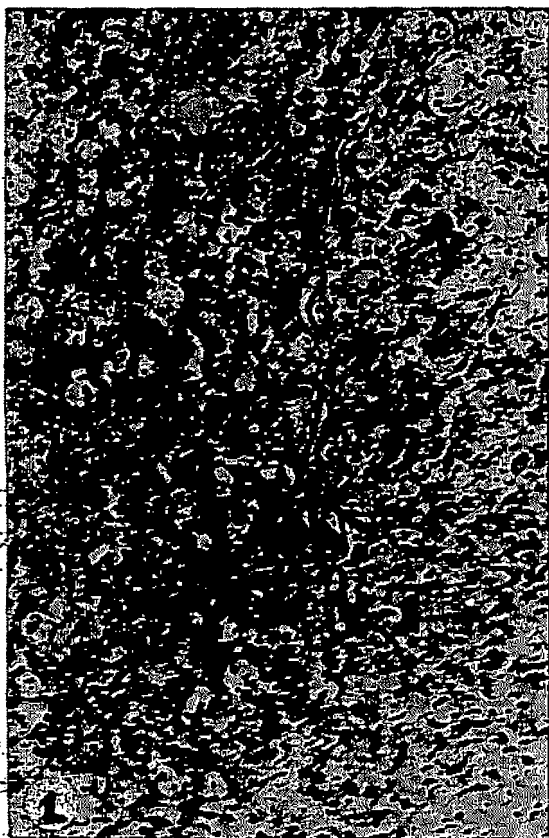


犬の膵臓の萎縮

東京農工大学農学部家畜病理学教室出題 第11回獣医病理研修会標本 No.167



標本：犬の膵臓，固定：ホルマリン液，染色：No. 1. Aldehyde fuchsin + Trichrome. No.2. Alcian blue + PAS.

A. 問題標本：上の切片は膵右葉，下は左葉。府中市開業宮本獣医師扱い。約2才，雑種，牝，体重8.9 kg。約半年にわたる下痢があり，削瘦し，数日前より昏睡状態となって斃死。剖検所見としては，全身脂肪組織の消失，軀幹筋，肝，脾，膵の萎縮等が目立ち，特に膵のそれは高度であり，正常の $\frac{1}{4}$ ～ $\frac{1}{5}$ 程度の重量であった。他には犬糸状虫10数匹寄生，化膿性カタル性気管枝肺炎，下顎部のフレグモーネ等の病変があった。死後，組織の固定までに約2時間を要した。

B. 参考標本：上は左，下は右葉。家畜薬理学教室実験犬。膵臓主管を結紮後約1ヶ月を経過したもの。

C. 対照標本：上は左，下は右葉。約1才の牡犬でジステンパーで処分。ほぼ正常な容積を有する膵として使

用。

組織学的所見（写真1，2，中拡大，染色No.1）

膵臓の組織細胞には，平等にして高度な萎縮性変化がある。腺房を構成する腺細胞は，円柱ないし円錐状ではなく，低立方形となり，基底膜よりの塩基好性は失われ，チモゲン顆粒も全く存在しない。透明な原形質を有する立方上皮よりなる介在部が多く認められる。排泄管系には著変はない。小葉間の間質には著変は認めないが，肥胖細胞の分布は多目である。ラ氏島或はラ氏島類似組織は，多くの切片を検索しても，その存在を指摘し得ない。他には，軀幹筋，心筋，腸平滑筋，肝等のリポフスチン沈着，肝，腎の脂肪変性，下垂体の酸好性細胞の増加等の所見が加えられた。

組織学的診断

（結合組織増殖を伴わない，内外分泌機能不全が考えられる）膵臓の萎縮。